

校長室だより



平成22年(2010年)6月19日

校長 箱家 勝規

名札の意味

梅雨入りとともに、蒸し暑い日が続いています。

学校では、衣替えで白のカッターシャツが目に入るようになりました。そんな中、名札をきちんと胸に付けてくれている生徒を見るとうれしい気分になります。

制服には名札が縫いつけられていましたが、それを脱ぐ季節になると、カッターシャツに名札を付けなければなりません。それが毎日となると、当たり前のことようですが面倒になります。

前の日の夜、カッターシャツを準備している時に名札を付けている人がいるかもしれません。

忘れないようにカバンにしまっていて、家を出るときに付ける人がいるかもしれません。

朝、うちの人に声をかけてもらって、付ける人がいるかもしれません。

いずれにしても、名札を胸に付ける人は、そのことを気にかけて、忘れないようにしようと心がけているのですから、そのこと自体が何よりも素晴らしいことです。そして、全員の名前を覚える機会がほしい私にとって、名札をつけてもらえることはとてもありがたいことです。



最近では、多くの企業で社員に名札を付ける規則があります。なぜ、そのようになったかを私なりに考えますと、ひとつは、社員同士のコミュニケーションのためでしょう。名札があることで、きちんと名前を呼んでくれる安心感があります。反対に間違えて呼ぶのは失礼になります。

また、社会的な信用や社員としての意識向上のためでもあるでしょう。特にサービス業の場合、必ず名札を付けるように指導されています。さらには、自分の仕事に責任を持つことにつながるはずです。

名札があることで、他の人に親しみを感ずってもらう意味もあるでしょう。

たかが名札ですが、付ける意味があることは確かでしょう。